



SANO NIHON UNIVERSITY
SECONDARY SCHOOL



Member of
the Associated Schools
Network

We prepare for

Cambridge

English Qualifications

[広報]

わかざくら

W A K A Z A K U R A

vol.69

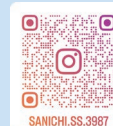
2025.4.25



目次

入学式	P 2・3
姉妹校からのメッセージ	P 4
入学式・総合的探究最終発表会	P 5
各賞受賞者	P 6

ホームページ・Instagramはこちら



佐野日本大学中等教育学校

栃木県佐野市石塚町2555 ☎ 0283-25-0111(代)

<http://ss.sanonihon-u-h.ed.jp/>

入学式にあたって



新入生の皆さんへ

校長 船渡川 重幸

つい先日まで冬に逆戻りしたような寒い日が続いていましたが、まさに春の到来に躍動感を感じる今日の佳き日に、ご多用の中、日本大学学長、大貫進一郎先生のご名代として、日本大学副学長の兼板佳孝様、PTA副会長の本庄広大様をはじめたくさんのご来賓、そして保護者の皆様方をお迎えし、佐野日本大学中等教育学校第16回入学式を挙げていきますことを在校生、教職員を代表して心よりお礼申し上げます。

ただ今、担任の先生の呼名で元気よく返事をし、起立した43名の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さん一人ひとりの立ち姿からは、緊張とともに、晴れやかで、意欲に満ちた姿を見ることができ、とても頼もしく感じました。いよいよ今日から中等教育学校生です。本校生は、いろいろなところから集まって来ています。まず皆さんは、今日の「出会い」を大切にしてください。

さて、新入生の皆さん、皆さんが卒業した小学校にも「教育目標」があったように、本校には日本大学の教育理念である「自主創造」の考え方が土台にあります。自主創造とは「自ら学ぶ」、「自ら考える」、「自ら道をひらく」力を培うことです。その考え方の下、本校では「磨こう心」、「輝く知性」、「拓こう未来」の三つの教育目標が掲げられています。皆さんが本校で6年間過ごすにあたって、私から取り組んでほしいこと三つ、これからお話しします。

まず一つ目は、「しなやかで豊かな心」を育てるということです。それは、「自分を大切にするとともに、自分の周りにいる友達も大切に作る生徒になる」ということです。この世界には自分と全く同じ人は一人もいません。だからこそ、自分とは異なる人々の考え方や感じ方を理解できる心を持つということです。「みんなそれぞれ違うんだ!」ということを受け入れ、認める心を持つこと、難しい言葉で表現するなら「多様性」を尊重する人になるということです。これからの6年間の学校生活の様々な場面で、相手を思いやり、理解し合って、助け合い、支え合い、共に学んでいてほしいと思います。

二つ目は、「志と目標を持って何事にも挑戦する生徒になる」ということです。夢や希望は誰でも持つことができます。しかし、大切なことは、それを達成するために「志と目標」がなければならないということです。私は、本校での教育活動を通して、「志と目標」を持って、具体的に動く生徒を育てたいと思っています。そして「志と目

標」の実現のためには、確かな学力が欠かせません。皆さんは、どの教科の授業も大切にして、しっかり勉強しましょう。授業と同じくらい大切なのは、家庭学習です。毎日の家庭学習で、宿題はもちろん、予習・復習もしっかり行いましょう。また、皆さんは、6年間の学校生活の中で、多くの体験をします。楽しいこと、嬉しいこと、感動すること、時には苦しいことや辛いこと、悲しいこと、我慢しなければならないことなど毎日が体験の連続です。その体験こそが、皆さんの若々しい心に種を蒔き、新しい芽を出し、根を張るものが生まれてくるのです。それこそが、皆さんを成長させ「生きる力」となって将来に花を咲かせることになるのです。大いにトライ＆エラー（挑戦と失敗）を繰り返しながら、自分を磨いてください。皆さんの光り輝く未来のために、幅広い知識と教養を身につけ、健やかに成長し、将来、地域社会のため、日本の発展のために、世界人類のために貢献できる力を身につけてほしいと思います。

三つ目は、「世界に羽ばたく人になる」ということです。本校では、グローバル教育を積極的に推進しています。今、世界は垣根がどんどん低くなっています。これから生きる皆さんは、日本であろうと世界であろうと様々な人々と一緒に仕事をすることもあるでしょう。ともに生活することもあると思います。そのような環境にあっても、自分と異なる立場の人々を理解し思い遣ることができることが大切です。そういった心を養う最も効果的なことは、実際に海外に行き、たくさんの人々と触れ合い、外から日本を見つめる経験を持つことだと思います。本校は、海外にいくつもの姉妹校、提携校を持っています。6か年を通して修学旅行をはじめ様々な海外フィールドワークプログラムを設定しています。いろいろな人々と出会い、物事に対する見方や考え方を広げるために、是非、積極的に参加することを期待しています。以上三つの取り組んでほしいことについてお話をしました。

ご参列の保護者の皆様、本日は、誠にありがとうございます。お子様がこれからの6年間を通して、しなやかで逞しい心豊かな思い遣りのある生徒に成長してくれることを願っています。そして6年後には今より逞しく、よりしなやかに光り輝いているお子様を佐野日本大学中等教育学校は送り出したいと思っています。私たち教職員一同、お子様たちを全力で指導・支援して参ります。どうぞ、ご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。

最後になりますが、新入生の皆さん、これから過ごす中等生としての6年間は、人生において、とても重要な時期になります。心と体が飛躍的に成長する時であり、多くのことを吸収する時期でもあります。友人と先生方と共に切磋琢磨しながら充実した中等での生活を送ることを心より期待して、式辞といたします。

新入生の皆さん、本当に入学おめでとう。



祝 辞

日本大学学長 大貫 進一郎
日本大学短期大学部学長

本日、御来賓の御臨席並びに多数の保護者の皆様の御列席を賜り、ここに令和7年度佐野日本大学中等教育学校の入学式が盛大に挙行されますこと、心よりお祝いを申し上げます。

日本大学を代表し、お祝いの言葉を申し上げます。

新入生の皆さん、改めまして御入学おめでとうございます。多くの選択肢の中から本校を選んでもくださった、皆さんを心から歓迎するとともに、その期待に応えるべく、一人ひとりの未来作りをサポートして参ります。

保護者の皆様、お子様の御入学に際し、心よりお祝いを申し上げます。

お子様が正課内外の活動を通して大きく成長できるよう、教職員一同、丁寧に教育に当たって参ります。本校の教育方針を御理解いただき、お力添えを賜りますようお願い申し上げます。

日本大学は、1889年に創立された日本法律学校を前身とし、「自主創造」を教育理念としています。欧米の法制度を積極的に取り入れる風潮にあった明治時代、学祖である山田顕義は、海外視察で広めた見聞に基づいて、日本固有の文化や風土に合った法律の必要性を感じるようになりました。これを教授する機関として設立されたのが、先の日本法律学校であり、前例に捉われず、新たな領域に挑戦するこの精神が「自主創造」という、本学の教育理念として受け継がれています。「自ら学ぶ」「自ら考える」「自ら道をひらく」という「自主創造」の三つの柱を、皆さんも在籍期間を通して積極的に体現されることを大いに期待しています。

さて、新入生の皆さんが、これから学園生活を始めるに当たり、大切にしていきたい三つのことをお話しさせていただきます。

一つ目は、「経験」です。前向きに新しいことに挑み、自身の道を開拓することは皆さんの特権でもあります。

単なる机上の空論ではなく、自ら実際に「経験」し、そこから学ぶことを大いに楽しんでください。もちろん、その全てが成功裏に終わらないかもしれませんが、そうであっても、自ら「経験」したことは次のステップで必ず活かすことができますし、うまくいかなかった理由をしっかりと省察することでさらなる成長につながります。

二つ目は、「責任」です。皆さんは、今までよりも自身の意志に基づいて行動できるようになるでしょう。もちろんこれは成長の証ですが、この広がる自由度と表裏一体にあるのが「責任」です。自ら判断して行ったことには「責任」を持つこととなりますので、この点はしっかりと心に留めておいてください。

三つ目は、「つながり」です。デジタル化が進む今日だからこそ、人と人との対面のコミュニケーションはより重要度を増しています。昨年行われたある研究機関の調査では、10代の44パーセントが「SNSの方が自分らしくいられる」と回答しています。もちろん高い利便性や即時性、日常の世界を超えた幅広いコミュニケーションが可能であるということは大きな利点であるのですが、一方で、SNSをめぐるトラブルも多く起こっているのが実情です。対面のコミュニケーションでは、相手の表情や仕草、声の強弱、息づかい、距離感や空気感などを自然と感ずることが出来ます。しかし、人間ならではのこの感覚は、SNSでの世界では感じ取りにくいものがありますし、この感覚を現実世界でどれだけ経験しているかが仮想世界を安心安全に楽しむためにも必要となります。これからの学園生活では、また新たな仲間や教職員との出会いがありますので、是非その「つながり」を大切にしていきたいと、対面での関わり合いを通して自身を磨いていただきたいと思います。

結びとなりますが、今日を迎えられたのは皆さんの努力はもとより、御家族をはじめとする周囲の方々への支えによるものと存じます。感謝の気持ちを常に忘れず、一日一日を大切に過ごしながら、卒業時には、今以上に輝いていられるようにしてください。そのために、スタートラインを切った今日、在籍中の目標を是非立ててください。勉強面でもそれ以外の分野でも構いません。6年間は、本当にあっという間ですので、大きな目標とそれに向けたステップを逆算的に定めていただき、目標達成を現実的なものとしていただければと思います。新入生の皆さん一人ひとりが、有意義で充実した学園生活を送られることを祈念し、私の祝辞といたします。



祝 辞

PTA副会長 本 庄 広 大

令和7年度の新入生の皆さん、佐野日本大学中等教育学校へのご入学、誠におめでとうございます。あわせて保護者の皆さまにも心よりお祝い申し上げます。

PTAを代表しまして、一言ご挨拶申し上げます。

新入生の皆さんはこれから始まる6年間の学校生活に、希望と期待で胸を膨らませていることと思います。

本校は、「自主創造」、「文武両道」、「師弟同行」の校訓のもと、学業のみならず、部活動や学校行事など様々な活動を通じて、皆さんの成長を支えてくれる素晴らしい環境が整っています。

国際交流において多様な文化・価値観に触れる機会も多く提供しています。

また、ボランティア活動や地域イベントにも積極的に参加して地域とのつながりを深めながら、社会に貢献する意識を育てています。

私自身、本校の保護者として今年で11年目を迎えますが、本日皆さんが入学した佐野日本大学中等教育学校は、

多くの経験と学びを重ね、自分自身を大きく育てていくことのできる素晴らしい学校であることを改めてお伝えしたいと思います。

しかし、学校生活の中では、時に思うようにいかないことがあるかもしれません。それでも失敗を恐れず、どうか前向きに挑戦し続けてください。みなさんのそばにはどんなときでも寄り添い、受け止め、支えてくれる先生方がいるので大丈夫です。

第5回WORLD BASEBALL CLASSICで日本代表チームの監督を務めた栗山英樹氏は自著『信じ切る力』の中で、「今だけにとらわれてはいけない。努力はしていても結果が出ないこともある。一番もったいないのは結果以上にそれを嘆くこと。今結果が出せなかったとしてもその努力が思わぬ形で未来に生きてくる可能性は間違いなくある。」と若者にメッセージを記しています。

皆さんの勇気ある挑戦を、私たちPTAも学校行事や運営を通じて精一杯応援します。

保護者の皆さまにおかれましては、お子さまが充実した学校生活を送ることができるよう、ぜひPTA活動にご理解・ご賛同いただき、お子さまと一緒に学校生活を楽しみながら本校の良さを肌で感じて欲しいと願っています。

保護者同士の情報交換の場も用意しています。子供たちの成長に大事な時期をぜひ一緒に見守りましょう。

結びに、新入生の皆さんならびに本日ご列席の皆さまの益々のご健康とご活躍を心より祈念いたしまして、私からのお祝いの言葉とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございます。

姉妹校からのメッセージ

Dear new students

On behalf of everyone at Stratford Girls' Grammar School in England, I extend a warm welcome and best wishes as you start this exciting new chapter in your education. We are very happy and fortunate to be partnered with your wonderful school. Like your school, we believe in helping each student grow and succeed. Developing skills and attributes in these areas will ensure that you are able to fulfil your potential and be ready for the world beyond school. Our students are eager to connect with you and share their experiences along the way. We hope, therefore, to work with you and your teachers as you explore your interests, develop your skills, and make new friends. Good Luck!

Jacqui Cornell
Stratford Girls' Grammar School
Headteacher

新入生の皆さんへ

イギリス、ストラットフォード・ガールズ・グラマースクールを代表して、皆さんの佐野日本大学中等教育学校御入学と新たな門出をお祝い申し上げます。私たちの学校と佐野日本大学中等教育学校が姉妹校として提携していることを、大変光栄に思っています。佐野日本大学中等教育学校と同様に、私たちの学校も、生徒一人ひとりが互いに助け合い、その成長を支援できることを誇りに持っています。自分の能力や資質を伸ばすことによって、皆さんは、自身の潜在能力を開花させ、学校卒業後の世界で活躍する礎を築くことができます。私たちの生徒たちは、皆さんとの交流を通して、共に学び合い経験を分かち合うことを楽しみにしています。皆さんが、学校の仲間や先生方と協力し合い、自分の興味を追求し、能力を磨き、新たな友人を作っていくことを願っています。皆さんの今後のご活躍とご成功を心よりお祈り申し上げます。

ストラットフォード・ガールズ・グラマースクール校長
ジャッキー・コーネル

新入生の皆さんへ

佐野日本大学高等学校、佐野日本大学中等教育学校の姉妹校である、イギリス、ストラットフォード・アポン・エイボンにあるキングエドワード6世校から、ご挨拶申し上げます。

皆さんの、胸をときめかせる新しい学校生活が始まるにあたり、シェークスピアの言葉を贈りたいと思います。シェークスピアはキングエドワード6世校の名誉ある卒業生です。

「自分自身に正直であれ」(『ハムレット』より)

自分自身に正直であり続けることが、あなたにとって最大の力となります。あなたの個性、興味、夢を大切にしてください。目立つことを恐れず、安易な道を選ばず、挑戦を恐れなくてください。あなたの持つ人間性があなたを特別な存在にし、成功へと導くのです。学校生活を送る中で、友情を深め、時には困難にも立ち向かわなければならないことがあるでしょう。その過程でこそ、あなた自身を輝かせてください。自分に正直で、周りの人にも誠実であり続けてください。あなたの価値観に基づいた選択をしてください。自分に正直であることで、あなたは自分の夢を実現するだけでなく、周りの人々にも良い影響を与えることになるでしょう。皆さんの幸せと成功を心から願っています。

キングエドワード6世校校長
ベネット・カー

Dear New Students

Greetings from King Edward VI School in Stratford-upon-Avon, United Kingdom.

As you embark on this exciting journey through school, I would like to share with you the wise words of William Shakespeare, our esteemed former student: **"To thine own self be true."**

Staying true to yourself is your greatest strength. Embrace your unique qualities, interests and aspirations. Do not be afraid to stand out or take the road less travelled. Your individuality is what makes you special and will guide you to success.

As you navigate through school, build friendships, and face challenges, let your true self shine. Be honest with yourself and others, and make choices that reflect your values. By being true to yourself, you will not only find personal fulfilment but also inspire those around you.

I wish you every happiness and success.

Yours sincerely,
Bennet Carr
King Edward VI School
Headmaster



晴れやかに 入学式行われる

4月5日(土)、桜の花も咲き誇り、新入生を祝うような晴れやかな青空のもと、入学式が挙行された。

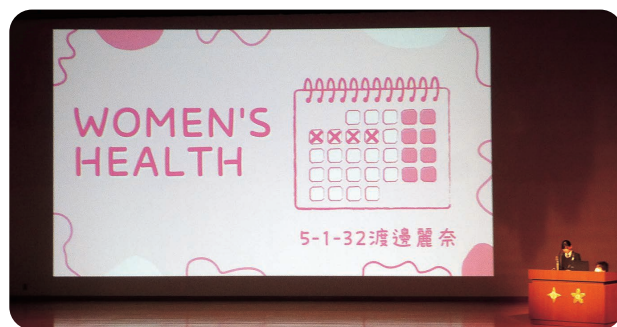


新入生代表の鈴木崇史さん(佐野・佐野小)が誓いのことばを述べた。鈴木さんは、アメリカの教育者ヘレン・ケラー氏の「人生はどちらかです。勇気をもっていどむか、棒にふるか」という言葉を挙げ、夢や目標に向かって積極的に挑戦することの大切さを心に刻み、失敗を恐れず一歩を踏み出す勇気を持ち、日々努力を積み重ね、成長していきたいと述べた。

総合的探究最終発表会

3月12日(水)、プラザ40にて総合的探究最終発表会が開催された。本学園及び日本大学の各学部の先生方をお招きし、事前に実施された発表会で代表に選ばれた10グループが堂々と発表を行った。

本年度は1・2年生は企業課題を解決するということをテーマに効果的なプレゼンテーション資料の作り方を学び、3～5年生は本校教員が提示したテーマから自身が探究したいものを選択し、より深い探究活動を行った。



最終発表会で代表に選ばれた10グループは、それぞれが自分の探究した内容をわかりやすくまとめたプレゼンテーション資料を用いて発表した。大学の先生方からの講評でも、大学生に劣らないしっかりした探究の手法でまとめられていたとお褒めの言葉をいただいた。

日本大学との連携も深まり、探究へのアドバイスだけではなく、長期休暇などを利用したフィールドワークも複数の学部で実施された。次年度の更なる発展が期待される。審査結果は次の通り。

最優秀賞

女性ホルモン「エストロゲン」と食事の関わり

渡邊 麗奈(5年・松戸・横須賀小)

乳酸菌 vs 納豆菌 勝利の行方は…!?

神山 美優(5年・佐野・犬伏東小)

中等教育学校のおもな分掌

校 長	船渡川重幸
教 頭	大島宏之
主 事	菊地秀明 柏倉 豊 中井啓之 田中 博
高校・中等事務長	細田晃良

退任教職員

須藤多佳志 教諭(国語) 菅沼浩一郎 教諭(国語)

篠崎 展男 教諭(理科) 日景 浩美 教諭(音楽)

*印の教職員は引き続き勤務いたします。

佐野日本大学学園異動(高等学校→中等教育学校)

加地 剛 教諭(理科)

新任教職員

上岡 富久 教諭(英語)

本村 誠 職員(事務) 福島 唯織 職員(事務)



中等教育学校 担任一覧

*学年主任

	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
1 組	山内 貴光*	福田 英子*	今泉 詠吉*	大橋 優生*	八下田久美子*	松岡 洋平*
2 組	皆川 力也	遊佐 幸司	中崎 英寿	山中 健	平川 竣一	島田真理子

令和6年度 修了式各賞受賞者

日本大学奨励賞



柿木 萌衣
(2年・太田・北の杜学園)



井上 晏奈
(佐野・界小)



清水 聖乃
(佐野・あそ野学園義務教育学校)

佐野市長賞

セカンドステージ最優秀賞



嶋村 美月
(4年・行田・太田西小)

セカンドステージ優秀賞



宮下 さら
(4年・佐野・田沼小)

ファーストステージ最優秀賞



松本 卓也
(2年・足利・南小)

ファーストステージ優秀賞



水野 陽花
(2年・小山・小山第一小)

三か年皆勤賞

相澤 琉巳 (幸手・権現堂小)
江藤 双葉 (加須・不動岡小)
赤堀 伊織 (フェリーチェ玉村国際学園小)
神山 実穂 (栃木・栃木中央小)
西澤 鈴和 (佐野・吉水小)

三か年精勤賞

柿沼 里采 (羽生・羽生南小)
唐澤 凜羽 (久喜・久喜東小)
桑子 千鶴 (佐野・石塚小)
藤崎 春子 (栃木・大平中央小)
須永 真行 (足利・御厨小)

奨励賞

作文
清水 聖乃

栃木中学校体育連盟体育運動優良生徒賞

栗原 萌成 (邑楽・中野小)
片柳 寿規 (佐野・葛生小)

佐野市中学校体育連盟優秀選手賞

サッカー部
片柳 寿規

佐野市中学校体育連盟運動優良生徒賞

石森 諒 (足利・山辺小)
須永 真行

栃木県合唱連盟賞

長 南之奏 (栃木・家中小)

佐野市中学校文化連盟芸能・文化活動優秀生徒賞

茶道同好会
宮城 碧 (栃木・千塚小)
華道同好会
清水 聖乃

部活動功労賞

サッカー部
栗原 萌成
片柳 寿規
合唱
長 南之奏
書道同好会
井上 晏奈
神山 実穂

部活動努力賞

男子バスケットボール部
石森 諒
唐澤 凜羽
菊地 悠太 (栃木・栃木第三小)
宮田 倅輝 (下野・国分寺東小)
須永 真行
女子バスケットボール部
江藤 双葉
柿沼 里采

伊藤 優杏 (羽生・岩瀬小)
前原 小華 (大泉・南小)
山川 愛子 (小山・小山第一小)
山根 杏佳 (佐野・赤見小)

美術部

畔柳葉々子 (作新学院小学部)
山本 彩香 (足利・富田小)
倉持 海月 (結城・城南小)
栗原 美冬 (下野・石橋北小)
橋村 美美 (佐野・氷室小)
武藤 摩央 (佐野・界小)

吹奏楽部

桑子 千鶴
佐野 良太 (佐野・佐野小)
小山 奏侑 (古河・古河第一小)
西澤 鈴和

英語研究部

天野 日葵 (太田・宝泉東小)
藤崎 春子
堀田 紗礼 (古河・古河第二小)

合唱部

岩瀬 心音 (筑西・下館小)

ディベート部

小和田幸志郎 (足利・桜小)

茶道同好会

上原 瑠衣 (栃木・栃木第三小)
宮城 碧
赤堀 伊織
今吉 史 (下野・緑小)
中田 依茉 (栃木・皆川城東小)

林 愛理咲 (下野・祇園小)

華道同好会

増田 治佳 (佐野・界小)
清水 聖乃

学校後援会表彰

書道

横田 樹音 (2年・館林・第一小)
神山 実穂
井上 晏奈

和太鼓

福地 天音 (2年・太田・太田小)
加藤 紗良 (2年・太田・太田小)
土屋 咲葵 (2年・杉戸・高野台小)
服部 泰人 (2年・太田・尾島小)

作文

清水 聖乃

ポスター

柿木 萌衣

※学校後援会表彰は全学年が対象となります。
※学年表記は昨年度のもので、
※学年表記がないものは3年です。



編集後記

総合的探究の時間のガイダンスが行われた。昨年の経験を踏まえ、さらに意欲的に探究学習に取り組もうとする生徒たちは、多岐にわたる今年度のテーマ一覧を片手に先生方に詳細を質問していた。
一人ひとりの興味・関心がさらに深められ、実りある時間になることを期待したい。
(長谷川 記)

広報わかざくら VOL.69

佐野日本大学中等教育学校 栃木県佐野市石塚町2555
☎0283-25-0111 (代) <https://ss.sano-nichidai.jp/>